

淋菌 *Neisseria gonorrhoeae* のヒツジ血液寒天培地上での発育性及び菌株生存期間の検証

◎星 紫織¹⁾、諫山 あかり¹⁾、有吉 英二¹⁾、土田 栄治¹⁾、藤島 瑛子¹⁾、川口 かなめ¹⁾、平角 愛子¹⁾
福岡市医師会 臨床検査センター¹⁾

【はじめに】淋菌は日常稀にしか見かけないが、臨床では極めて重要な細菌である。一般的に、血液寒天培地よりもチョコレート寒天培地の方が検出されやすく、温度変化や乾燥に弱く死滅しやすい菌である。今回淋菌の臨床分離株を使用し、血液寒天培地上での発育性およびチョコレート寒天培地での菌株生存期間の検証を行ったので報告する。【方法】当施設で検出された淋菌臨床分離株 6 株を使用した。使用培地はトリプトチン 5%ヒツジ血液寒天培地、チョコレートⅡ寒天培地（日本ベクトン・ディッキンソン）である。①血液寒天培地での発育性：35℃大気環境下と炭酸ガス環境下で 48 時間培養し、発育性を比較した。②コロニーの大きさの比較：35℃炭酸ガス環境下で血液寒天培地、チョコレート寒天培地で 48 時間培養。発育したコロニーの直径を比較した。③菌株生存期間：チョコレート寒天培地を使用し、室温環境下および 35℃炭酸ガス環境下に曝し、24 時間毎に継代し、生存期間を比較した。【結果】①35℃大気環境下では 6 株中 5 株発育した。炭酸ガス環境下では 6 株

全て発育した。②血液寒天培地上のコロニー平均 2.52mm、チョコレート寒天培地上のコロニー平均 3.36mm となり、6 株全てにおいてチョコレート寒天培地でのコロニーの方が大きい結果となった。③室温環境下での生存期間では平均 2.7 日（1～5 日）、炭酸ガス環境下での生存期間は平均 11.0 日（5～17 日）であった。

【考察】淋菌の血液寒天培地における発育はチョコレート寒天培地にコロニーの大きさで若干劣るものの、良好であった。大気環境下で発育しない株が 1 株存在したことから、菌株による個体差があることが判明した。また淋菌は、室温環境下では死滅しやすいが、炭酸ガス環境下では多くの菌株が 1 週間以上生存していることが判明した。生存期間に関しても菌株個体差があった。淋菌菌株の短期間での保存は、炭酸ガスふ卵器内での保存が有効である。【結語】今回、淋菌における発育性及び生存期間について検証を行った。これらの検証結果を踏まえ、ルーチンで活用していきたい。
連絡先：(092)852-1506